

日本紀略（寛和元年三月）

[原]

三月一日乙巳。三日丁未。御燈。五日己酉。季御読経始。八日壬子。同竟。十一日乙卯。迎伊勢齋王。使右中弁菅資忠。十八日壬戌。少納言外記等参會六波羅蜜寺。修善根。施以*牙百斗。廿六日庚午。石清水臨時祭。以右近中将源時中朝臣為使。廿七日。辛未。發遣宇佐使散位和氣仲遠。廿九日。癸酉。定大嘗會悠紀主基等。

[読]

三月一日乙巳(きのとみ)。

三日丁未(ひのとひつじ)。御燈(ごとう)。¹

五日己酉(つちのととり)。季の御讀經² 始め。

八日壬子。(みずのえね)同竟(どうおは)り。

十一日乙卯。(きのとう)伊勢齋王³ を迎(むか)ふ。使は、右中弁菅資忠。

十八日壬戌(みずのといぬ)。少納言外記等(ら)六波羅蜜寺⁴ に參會し、善根を修(しゅ)うす。施(ほどこ)すに、麩牙⁵ (しょうが)百斗⁶ を以てす。⁷

廿六日庚午(かのえうま)。石清水臨時祭。⁸ 右近中将源時中朝臣を以て使と爲(す)。

廿七日辛未。(かのとひつじ)宇佐使(うさづかい)⁹ 散位¹⁰ 和氣仲遠を發遣す。

¹ 御燈：毎年三月三日と九日に天皇が北辰(北極星)に燈火を奉る行事。民間で行われていたものが、国土安穩や天変地異の回避などを祈る儀として宮廷に取り入れられた。

小右記寛和元年三月三日条に「不被奉御燈、依御卜」とあり、実際には御燈は行なわれなかったことが分かる。

² 春の大般若經の転読が行なわれた。

³ 円融天皇の代の伊勢齋宮：規子内親王。村上天皇と徽子女王の皇女。

⁴ 京都市東山区轆轤町所在。真言宗智山派。(中略)天曆五年近畿地方に悪疫が流行したとき、空也が自刻の十一面觀也音菩薩に祈請し靈驗があったので、これを安置して西光に落慶供養会を営んだ。(國史大辞典, vol. 14, p. 810)

⁵ (1) のろ、くじか(牙のある鹿の一種)。(2) 稻の異称。麩にはこの二つの意味があるが、ここでは「米」と解釈した。

⁶ 斗《単位》容量の単位。一斗は一〇升。約 850 cc。

⁷ 米を施入して、僧や貧しい者達に食べさせたということ。

⁸ 『小右記』によると、三月二十四日に試楽が行なわれて、二十六日には雨の中、石清水臨時祭が行なわれ、舞の披露や宴会が催されたようである。(試楽：公事や祭礼などに行われる舞楽の予行演習。特に、平安時代、石清水八幡や賀茂神社の臨時祭の前に清涼殿の前庭で東遊・神楽を天覽に供したこと。『大辞林』)

⁹ 宇佐使(うさづかい)：天皇即位の時と国家に異変が在る時に宇佐八幡宮に奉告祈願のために派遣される勅使。道鏡事件での和氣清麻呂の奉幣があつてから、即位を告げる奉幣は和氣氏五位の人をあてる例になった。

¹⁰ 散位：位階のみあり、それに相当する官職に就いていない者。

廿九日癸酉。(みずのととり)大嘗會(だいじょうえ)の悠紀主基(ゆきすき)¹¹等(とう)を定む。¹²

[現]

三月一日。乙巳。

(三月)三日、丁未。御燈という儀式がとり行われた。

(三月)五日、己酉。季節の御読経が始まった。

(三月)八日、壬子。これが終わった。

(三月)十一日、乙卯。[先代の]伊勢斎王を[都に]迎える使いに右中弁、菅資忠を任命した。

(三月)十八日、壬戌。少納言、外記などが六波羅蜜寺に集まって、善根(果報を受ける原因となる行為)を行なった。[その善根のための]施は鬻牙百斗であった。

(三月)二十六日、庚午。石清水臨時祭¹³があった。右近衛中将¹⁴源時中朝臣が使いとなった。

(三月)二十七日、辛未。宇佐使の散位和氣仲遠が発遣された。

(三月)二十九日、癸酉。大嘗会の悠紀・主基とその他の行事のことについて定めた。

[英]

Third month 1st day, *ki no to mi*.

3rd day, *hi no to hitsuji*. Royal Ceremony of the Light.

5th day, *tsuchi no to tori*. Seasonal Sutra Reading began.¹⁵

8th day, *mizu no e ne*. The aforementioned ritual was concluded.

¹¹大嘗會：天皇が即位後、初めて行う新嘗祭。その年の新穀を献じて自ら天照大神および天神地補祇を祀る、一代一度の大祭。祭場を2ヶ所に設け、東(左)を悠紀、西(右)を主基といい、神に供える新穀はあらかじめ卜定した国郡から奉らせ、当日、天皇はまず悠紀殿で、次に主基殿で、神事を行う。おおなめまつり。おおにえまつり。

¹²既に悠紀は近江国に、主基は丹波国に定められていることが日本紀略二月三日条に見えるので、この三月二十九日の記事は誤りか。

¹³天皇による石清水八幡宮の祭。大嘗会という即位後最初に行なう重大な神事が平安に遂げられるよう祈念したもので、天皇個人の臨時祭という性格が強い。祭使が内裏と社頭を往復し、両所での儀が重要な意味を持つ。(「儀式年中行事事典」pp. 85-87 参照)

¹⁴近衛府：令外官の一つ。大同2年(807)より近衛府を左近衛府、中衛府を右近衛府に改編し、六衛府制の一環として左右近衛府が成立した。官員は、大将(1名：従三位)、中将(1名)、少将(2名)、将監(4名)、将曹(4名)の他、府生や番長等があり、近衛舍人を管轄した。大将ともに中将や少将にも上位官人が任じられた。

¹⁵ The *ki no midokyō* 季御読経, “Seasonal Sutra Reading,” was a ceremony for the protection of the realm dating from the Heian Period. Lasting four days, it was held biannually in the second and eighth months. [...] (*Kōjien*) The text refers to the vernal reading here.

11th day, *ki no to u*. The royal messenger¹⁶ who was to meet and escort the Ise Priestess [on her return to the capital] was Middle Controller of the Right Kan Shichū (Sugawara no Shigetada).

18th day, *mizu no to inu*. Junior counselors and Council secretaries all assembled at Rokuharamitsuji (Rokuharamitsu Temple-Monastery),¹⁷ where they practiced “the root of karma” by donating one hundred *to* of rice.¹⁸

26th day, *ka no e uma*. Extraordinary Iwashimizu Festival.¹⁹ Middle Captain of the Inner Palace Guards of the Right Lord Minamoto no Jichū (Tokinaka) was the royal messenger.

27th day, *ka no to hitsuji*. The court dispatched the Usa royal messenger, Wake no Chūen (Nakatō), a courtier without post.²⁰

29th day, *mizu no to tori*. The court decided on the *yuki* and *suki* provinces for the Great New Food Festival, as well as other matters.

¹⁶ Although the text does not explicitly refer to the emissary as *chokushi* 勅使, “royal messenger,” because we take the envoy to have been dispatched by the sovereign, we have understood the *tsukai* 使 in this entry to be synonymous with *chokushi* and translated the term accordingly.

¹⁷ Rokuharamitsuji 六波羅蜜寺, Rokuharamitsu Temple-Monastery is a Shingon temple in Higashiyama, Kyoto. It is said to have been established by Kūya in 963. *Kokushi daijiten*, vol. 14, p. 810.

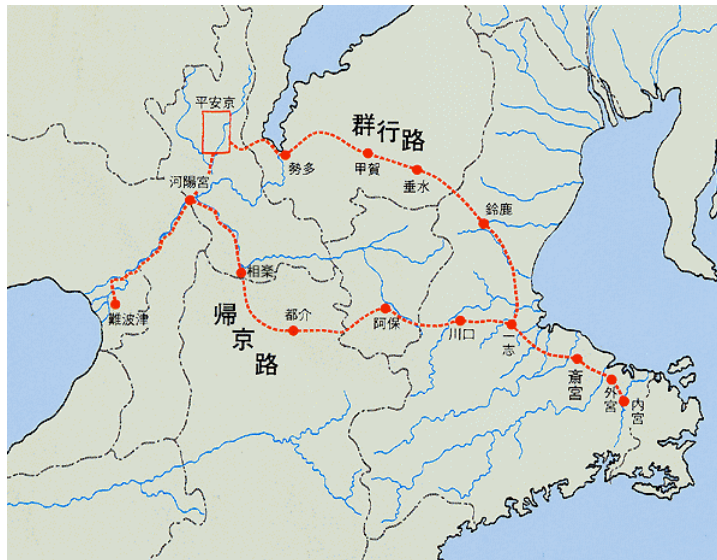
¹⁸ “The root of good karma” is a literal translation of *zenkon* 善根: the officials are attempting to accumulate future merit through benevolent acts. Although the text is not explicit on this matter, we presume that the rice was donated to feed monks, beggars, etc.

¹⁹ The *Iwashimizu rinjisai* 石清水臨時際, Extraordinary Iwashimizu Festival, was held for the Iwashimizu Hachimangu. It was celebrated yearly in the third month on the Day of the Horse. It started after the rebellions of Jōhei and Tennyō. See *Heian jidai shiten*, vol. 1, p.193.

²⁰ The messenger was sent as s “勅使.” See footnote #16.

齋宮郡行地図

平安時代<仁和二年（886）以降>の郡行・帰京路地図



齋宮歴史博物館ホームページ: <http://www.pref.mie.jp/SAIKU/HP/nani/gunkouzu-L.htm>